

平成20年9月5日

埋蔵文化財と文化財建造物の情報誌

文化財センター季刊情報誌

【かざぐるま】

2008秋号

44

財団法人 和歌山県文化財センター

風車

紀州の歴史と文化の風

特集

京奈和自動車道遺跡発掘調査

「中飯降遺跡の調査」

連載

文化財建造物課 短信

考古学の散歩道

「紀ノ川流域の古代寺院

きのくに歴史小話

「建築彫刻の話」

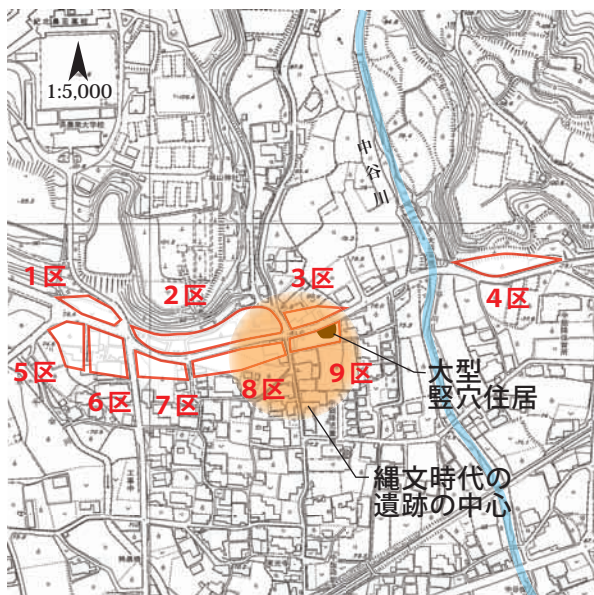
「発掘屋余話」

京奈和自動車道遺跡発掘調査 中飯降遺跡の調査

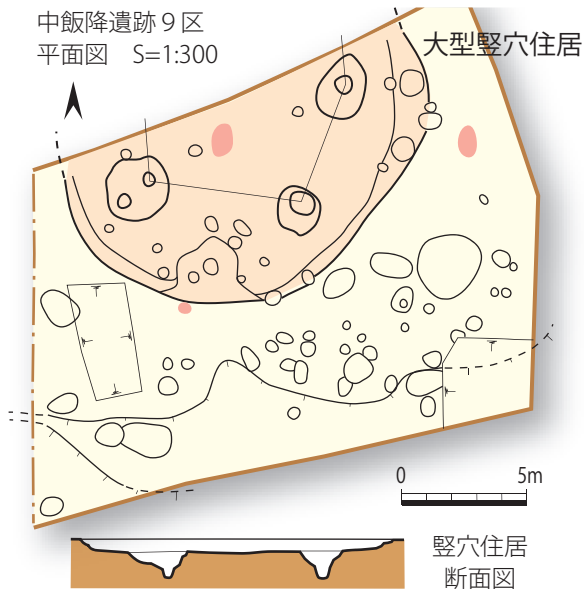
京奈和自動車道（紀北東道路）建設に伴う発掘調査も第三次年目の調査に入りました。これまでに丁ノ町・妙寺遺跡、西飯降Ⅱ遺跡の調査では縄文時代から中世まで多くの遺構を確認し、かつらぎ町に展開されてきた先人達の生活の一部分を垣間見ることができました。本年度は中飯降遺跡の調査を五月よりおこなっており、和歌山県農業大学の南側を中心として東西方向に発掘調査を行っています。調査は現在のところ、予定箇所約三〇％を終えています。成果の中で特に注目できるものは、縄文時代の生活の跡が見つかった調査地の東側の地区です。興味がある方は、通りすがりにでも声をかけて頂ければ、説明いたします。

調査地南東の9区では、縄文時代の大型竪穴住居一棟といくつかの土坑を発見しました。竪穴住居とは、地面を掘り下げて床とする半地下構造の建

物で、日本列島では縄文時代以降、長らく住居の主流でした。今回発見した竪穴住居は、直径約一四mの円形状であり、西日本でこれほど巨大な竪穴住居はほかにありません。東日本には大型建物の例がありますが、それらを含めても全国最大級といえるでしょう。北側は調査区外にかかるため全容は不明ですが、総面積は一五〇㎡（四五坪）以上と推定できます。竪穴住居の床面には、柱を据えるために掘った柱穴があり、直径約二m、深さ約一mと巨大なものです。残念ながら木製の柱は残っていませんが、直径三〇〜四〇cmの柱を立て、その周囲に石を詰めて固定した跡が残っています。これほど大規模で堅固な柱穴は縄文時代では異例であり、壮大な建物が想像できます。柱穴は調査区内に三箇所ありますが、全体を復元すると柱は四本以上と考えられます。また、床面の中央には炉跡



中飯降遺跡9区
平面図 S=1:300



- 1 調査地遠景 (北西から)
- 2 柱穴の根固め石 (拡大)
- 3 床面で発見された土器
- 4 竪穴住居の埋土の様子
- 5 南西の柱穴
- 6 炉跡
- 7 大型竪穴住居全景 (南東から)



縄文時代
西日本最大の竪穴住居

があり、直径七〇cm、深さ八cmの浅いくぼみで底面の土や石が赤く焼けています。大型竪穴住居が建てられた時期は、埋まっていた土器から縄文時代後期（約四千年前）と考えられます。

大型竪穴住居が見つかった地点から約四〇m西の8区でも、大型竪穴住居と同じ時代の遺構群が発見されています。ここでは、大型竪穴住居よりもかなり小さな竪穴住居が一棟見つっています。直径約五mの円形の浅いくぼみの中央に地面が赤く焼けた炉の跡が、くぼみの外縁にはたくさんの小さな柱穴がありました。竪穴住居の隅には小児骨を納めたとされている埋葬も発見されました。地上に直接屋根をふき下ろしたテント状の建物の跡で、一般的な住まいと考えられています。この竪穴住居の近くには、長さ一・三m、幅約一mの穴の上部に長さ三〇cmの石を並べた配石土坑がいくつか見つっています。これは、墓の一種であると考えられています。これ以外にも土器の底を打ち欠いて納めた土坑や性格が

よくわからない穴が数多くみついています。大型竪穴住居の周辺の様子も次第にわかってきました。

また縄文時代以降については、7区では弥生時代末から古墳時代初めにかけての方形の竪穴住居が二棟見つかりました。二棟は重なっており、新しいものは一辺約六mで、古いものは一辺約四mあり、それぞれ柱穴や炉跡、住居の壁際に掘られた溝が残っています。8区では奈良時代の掘立柱建物が二棟見つかりました。そのうち一棟には庇が付き、4区では中世の掘立柱建物が見つかりました。鎌倉時代末の素焼きの皿が出土しました。

今回見つかった縄文時代の大型竪穴住居が、何のためにつくられたのか、まだ検討を要しますが、縄文時代の実像を解明するうえで重要な成果となるでしょう。このような壮大な建造物をつくった人々が、どこからきてどこへ消えていったのか、想像は尽きませんが、残念ながら紙面が尽きたようです。またご報告できる機会まで。（中飯降遺跡調査担当一同）



中飯降遺跡8区の竪穴住居(右)と配石土坑(上)

文化財建造物課 短信



町並（伝統的建造物群）の保存とまちづくりについて

一昨年県内で初めて、湯浅町の北町を中心とした醸造関係の町並が国の選定を受けましたが、その他にも特徴ある建物がまともって残されている町並がたくさん残されています。

そのうち、①湯浅にはこの地域以外に、近世熊野街道筋の町屋群、②捕鯨で有名な太地には、明治から戦前までのパステル調の明るいペンキ塗住宅群、③那智山の北西に位置する色川は、広大な棚田の復活と里山化に取り組んでいる山村集落、④白浜町中は近世菱垣回船船主の集落で、大規模で上質な切妻造・四面庇付の主屋と附属屋からなる住宅群等々では調査や保存への動きがはじめられています。

町並は住宅のみでなく路地までの生活空間やその背景を含む範囲で、単なる保存でなくまちづくりの重要な資源と位置づけ、地域住民と行政が一体となった活動が欠かせません。（山本新平）



太地の明るい町並



色川の広大な山村集落

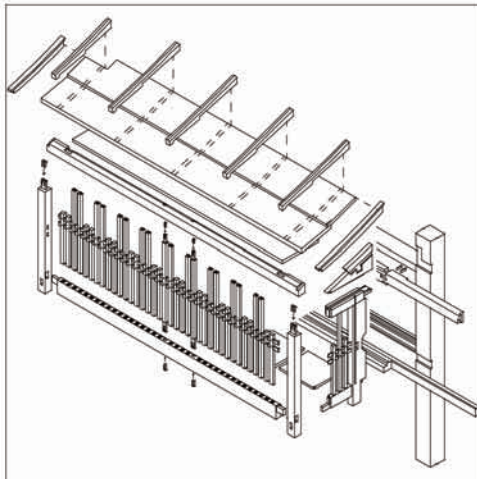
旧中筋家住宅・表門の出格子窓

旧中筋家住宅の表門は、間口が約三〇mもある長屋門で、そのうち正面（南面）と東面の開口部には出格子窓があります。修理に当たってこの出格子窓は一旦解体され、前年度までの修理工事の中で、傷みの激しい部材は修理や取り替えが行われて再び組み直されました。この出格子窓には主に桜や松の良質な材が使われており、多くの部材が複雑に組み合わせられて出来ています。修理材や取り替え材とのおさまりを調整して再び組み上げていくのは大工の手間がかかる作業ですが、出来る限り古材を残すことが文化財を後世に伝えていく上で重要です。

今年七月にはこの表門を覆っていた仮設屋根が撤去され、外部からも見ることが出来るようになりました。完成した出格子窓も、鏝壁と相まって中筋家の重厚な門構えを形作っています。現在は引き続き、土壁の修理を行っています。（増野真衣）



仮設屋根を撤去した表門



出格子窓のアイソメトリック図

紀ノ川流域の古代寺院 —佐野廃寺之巻—

富加見 泰彦

伊都郡には古佐田廃寺、神野々廃寺、名古曾廃寺、佐野廃寺が存在しています。紀ノ川上流から下流に向かって賀美、村主、指理、桑原の4郷があったことが明らかとなっていますから、数の上からは1郷に1寺が建立されていたこととなります。大和に最も近い位置にあり、仏教施策の影響を敏感に受け入れた地域といえるでしょう。この4寺に共通するのは、本薬師寺系の軒瓦を有していることです。また、古佐田廃寺を除いては川原寺系の軒瓦も有しています。伊都郡は、『大化改新詔』第2条によると「凡そ畿内は名壑（名張）の横河以来、南は紀伊の兄山（背の山）より以来・・・」と「畿内国」の南の境と記されていることから当時畿内に含まれていたことがわかります。この南の玄関口にあたるかつらぎ町に建立されたのが佐野廃寺で、『日本霊異記』には「狭屋寺」として登場しています。かつて地元では「幻の寺」といわれていましたが次第に全貌が明らかとなりました。創建時の瓦は川原寺系の軒瓦で、奈良県御所市の朝妻廃寺と同範といわれています。発掘調査で塔が東に、金堂が西に、塔の北側に講堂が建つ「法起寺式」の伽藍配置であることもわかりました。また、講堂北東隅には六角経蔵が存在することも明らかとなりました。

六角経蔵の発見にはエピソードがあります。当初3基の土坑(実は柱掘方だった)が見つかっていました。埋土は見た目には下層の弥生時代の遺構と同じく黒色土で、出土遺物も弥生土器のみでした。そのため、「3基が妙に規則的に並んでいるな」と思いつつもそれ以上の考えには至りませんでした。一人の学生にそのうちの1基の「土坑の断面を精査してくれ」と頼みました。しばらくして、その学生が「堆積の状態が縞状になっている」と報告してきました。さらに、精査すると見事に粘土と砂質土によって縞状になった版築の痕が見られたのです。土坑の底まで伸びる柱痕跡と、基底部には約30cmの円形状に鉄分が沈着しているのが確認できました。慌てて3基の土坑の内角を測ったところ、それまで気づかなかったのですが120度でした。「あと3基ある」と直感しました。なぜなら、六角形の内角の和は720度だからです。急遽、了解を得て掘り上げたところ予測通り残り3基の柱掘方が見事に見つかりました。弥生時代の墓と思っていた遺構は実は奈良時代の柱跡だったのです。こうして、発掘調査による最初の白鳳時代の六角経蔵が発見されたのです。しかし、この大発見も残念ながら地方版で取り上げられた程度で、後年奈良県加守廃寺で同種の遺構が発見されたときは格段の違いがありました。



佐野廃寺六角経蔵

きのくに歴史小話

れきしこばなし

建築彫刻の話 ②

建築彫刻の題材でちよつと変わったものを紹介しましょう。それは「瓜と長靴」の彫刻で、紀の川市桃山町にある三船神社本殿の「手挟み」という部材に彫刻されています。

この「瓜と長靴」と向かい合う手挟みには「桃の花と実」が彫刻されています。この二つの彫刻は一对になって中国故事を表しています。ではどんな故事かというところ「瓜田に履を納れず（瓜と長靴）、李下に冠を整さず（桃の花と実）」と読めるのです。瓜畑の中で靴を履き直そうと腰をかかめたり、桃畑の中で曲がった冠を正そうと手を上げるような仕草は、瓜泥棒や桃泥棒と間違われる、そこから、人の疑いを招きやすい行為は慎む方がいい、と言う喩えなのです。彫り物を見て、そう語っているように思いませんか。

一体誰がこのようなデザインを考え出したのでしょうか。三船神社本殿は天正一八年（一五九〇）に高野山の木食応其上人が発願し、根来の大工「形部左衛門丹後守藤原姓吉次」が建てたものです。応其上人の指示なのか、大工の創意なのか、或いはお宮の神主さんの意向なのでしょう。今となってはわかりませんが、他の建物、例えば慶長一一年（一六〇六）に建立された和歌浦天満神社の墓股にも「瓜と長靴」の彫刻があります。



三船神社本殿手挟み1



三船神社本殿手挟み2

恐らくは中国から元となる書物や図像集のようなものが伝来していたのではないのでしょうか。飾り物のように思われている建築彫刻にもすっかりメッセージが込められているのです。（鳴海祥博）

発掘

掘屋余話 ② 発掘屋の文章力

現地での発掘調査が終わった後、発掘調査報告書というのを作る。土器や遺構の写真・図などもあるが、結構文章も多い。そこで問われるのは、図面の精緻さとともに簡にして要を得た説明文。つまり文章力ですね。そのせいか、この業界、文学的素養が深く、筆の立つひとが多い。先年亡くなられた考古学者で千葉の歴史民俗博物館の館長であられた佐原真さんもそのひとりでしょう。平易にして深い洞察力ある文章。とりわけ本職外の随筆がよかった。チャールズ・ラムと寺田寅彦を足して二で割ったような味というべきか。ファンでした。

古くは、本邦考古学の黎明期に活躍した坪井正五郎は多くの歌を詠んだことが知られていますね。そのうちのひとつ。

遺跡にてよきもの得んとあせるとき

心はせつき（石器）胸はどきどき（土器・土器）

しゃれっ気、ユーモアがありますねえ。ユーモアといえば、この業界では何といても奈良大学の酒井龍一氏でしょう。考古学者にして川柳作家。いつも読む度、ニタリとさせられます。数多くの作品の中で、どれを推すかは難しいところでしょうが、わたしが気に入っているのは次の一首。

美人でも遺跡を掘っていいですか

うーん。この業界も世の例に漏れず、女性の進出は甚だしく、最近ではずいぶん多くの技師が活躍しています。これ以上のコメントは差し控えましょう。怖い。

（村田 弘）



催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報

公開シンポジウム『岩陰と古墳－海辺に葬られた人々－』

日 時：平成 20 年 10 月 4 日（土）午前 10 時 30 分～午後 4 時 40 分
会 場：和歌山県立情報交流センター（BIG・U）1F 多目的ホール
主 催：財団法人和歌山県文化財センター <http://www.wabunse.or.jp/>

公開シンポジウム『縄文時代の実像に迫る－大型竪穴住居の発見によせて－』

日 時：平成 20 年 10 月 19 日（日）午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
会 場：かつらぎ総合文化会館「あじさいホール」研修室
主 催：財団法人和歌山県文化財センター

県立紀伊風土記の丘

秋期企画展「こけしと木地職人の世界」

期 間：平成 20 年 9 月 20 日（土）～11 月 24 日（祝・月）
主 催：県立紀伊風土記の丘 <http://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp/>

和歌山県立博物館

特別展「木食応其OGO－秀吉から高野山を救った僧－」

期 間：平成 20 年 10 月 18 日（土）～11 月 24 日（祝・月）
主 催：和歌山県立博物館 <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/>

橋本市郷土資料館

企画展「応其上人没後四〇〇年 溜池を築き農業を進めた恩人展」

期 間：平成 20 年 10 月 1 日（水）～12 月 26 日（金）
主 催：橋本市郷土資料館

8	7	6	5	2	1	目次
催し物案内	「発掘屋余話」	「建築彫刻の話」	きのくに歴史小話	「紀ノ川流域の古代寺院」	連載コラム 考古学の散歩道	文化財建造物課 短信
					中飯降遺跡の調査	中飯降遺跡
					京奈和自動車道遺跡発掘調査	中飯降遺跡

現場事務所一覧

旧中筋家住宅保存修理事務所

和歌山市禰宜 148

TEL: 073(477)5969

金剛三昧院保存修理事務所

高野町高野山 425

TEL: 0736(56)5578

京奈和自動車道遺跡発掘調査事務所

かつらぎ町西飯降地内

TEL: 0736(22)2534

県指定史跡水軒堤防発掘調査事務所

和歌山市西浜地内

田辺城下町遺跡発掘調査事務所

田辺市南新町地内

TEL: 0739(24)8071

調査事務所

きのくに歴史探訪館

海南市築地 1-7

TEL: 073 (483) 4278

風車 44 (2008秋号)

平成20年9月5発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

TEL:073-433-3843

FAX:073-425-4595

E-mail:maizou-1@wabunse.or.jp

URL <http://www.wabunse.or.jp>